

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 石田博彰 (主幹 (防災担当) 小倉正大)	内線	4459 (4467)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
急傾斜地崩壊対策事業	急傾斜地崩壊対策 あきばだい 秋葉台(2)地区	朝来市 和田山町 あきばだい 秋葉台	2.0億円	—	平成30年度	平成32年度
事業目的			事業内容			
<p>当地区は、斜面崩壊の危険性が高いことから、土砂災害警戒区域となっており、斜面の下部には人家26戸、集会所（避難所）、市道がある。</p> <p>そのため、地域の人命・財産を守り、安全・安心な暮らしを支えるために、「第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画(H26～H30)」に基づき、急傾斜地崩壊対策を実施する。</p>			<p>擁壁工 延長250m 高さ2.0m～3.0m</p> <p>[負担割合] 国・県：各45.0% 地 元： 10.0%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>①秋葉台(2)地区にある斜面崩壊の危険性が高い箇所（JR山陰本線和田山駅より北西へ約1.5km）である。</p> <p>②斜面は荒廃している裸地がみられ、危険な状態である。</p> <p>③がけ直下に人家および避難所が連たんしており、土砂災害の危険性が高い。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>①警戒避難体制の整備に加え、ハード整備により土砂災害対策の充実を図り、地域の安全・安心な暮らしの確保に大きな効果がある。</p> <p>②地元要望が強く、工事に対する地元の理解が得られていることから、円滑な事業の執行が可能である。</p>					
(3) 環境適合性	①擁壁の施工にあたり、切土面を最小限にとどめ、既存木を可能な限り残し、環境保全に努める。					
(4) 優先性	①保全対象には人家26戸、秋葉台第4集会所（避難所）、市道がある。また、斜面には荒廃が進行している裸地がみられることから、早期事業着手を図る。					

急傾斜地崩壊対策事業



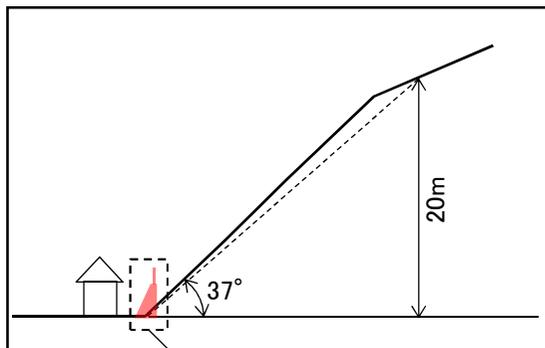
あきばだい
秋葉台(2)地区
朝来市和田山町秋葉台
総事業費:2.0億円
事業期間:H30~H32

保全対象
保全人家:26戸
秋葉台第4集会所(避難所)
市道

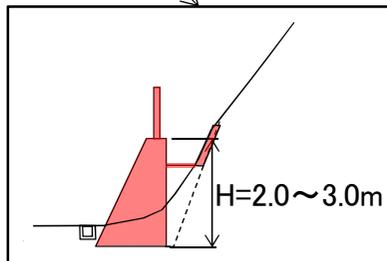
【平面図】



横断面図



構造図



凡例	
■	事業実施箇所
	土砂災害警戒区域
	保全人家等

急傾斜地崩壊対策事業【秋葉台(2)地区(朝来市)】



事業工程

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
詳細設計	■		
土地使用契約等	■	■	
擁壁工		■	■

①保全対象(がけ下の人家)



②荒廃状況(裸地)



③保全対象 秋葉台第4集会所(避難所)

